

いきいき女性部通信

事務局 石田 有希子



女性部では9月29日、溝江友貴さんの園地にて相馬小学校3年生りんご学習（袋はぎ・シール貼り）のお手伝いを行いました。

始めに振興課齊藤指導員より、リンゴも日焼けを起こしてしまつたため、袋はぎ作業は早朝や夕方の冷える時間帯を避け、果実が温まつている10時～15時の間で行つたなどのポイントが説明され、23名の児童は黒いマジックで絵を描いた透明シールを、1人3枚しわが寄りな

いよう丁寧に貼り付けていました。

自分の分を貼り終わると「袋もつとはいでもいい？」と児童。園主の溝江友貴さんが「どんどんはいでいいよー！みんな頑張つてくれるから助かる。いっでも畑に手伝いに来て」と、子ども達のやる気を更に引き出すような声掛けをする

と、みんな数を競つようにして次々と楽しみに袋をはぎていました。質問タイムには「リンゴ作業で大事なことはなんですか」という質問に「勉強と一緒に、努力と忍

耐！」と溝江さんが答えていた言葉が印象的でした。

児童が描いてきた絵は、今自分たちが好きなものやキャラクターの他に、自分の名前や「SOUMA（相馬）」とデザインされているものもありました。真っ赤な色の中に、みんなの描いた柄や字が白く浮き出たリンゴが出来る日が楽しみです！



優しく指導する田澤真由美部長



3



2



1



4

1. 次々に袋をはぐ男子児童たち
2. 「努力と忍耐！」と溝江友貴さん
3. 和やかに進む質問タイム
4. 作業後のジュースは最高♪
5. しっかりメモを取る真剣な眼差し（将来農家有望かも…!）
6. 郷土愛を感じるリンゴ



5



6

果実販売動向

販売課 田中瑠偉



9月の果実販売動向は売場の中心は夏果実からナシ・ブドウ等の秋果実中心の販売へと切り替わり、潤沢な入荷が続ぎ、価格は下げ基調となりました。一方で、潤沢な入荷の反面、これまでの高値在庫により末端での売価が下がりがきらず、売場の拡大が遅れ、荷動きの鈍い厳しい販売となりました。

りんごについては、9月前半は長野県産サンつがるの潤沢な入荷と入荷時期の遅れが生じ、青森県産のサンつがるの本格的な入荷も始まったことも相まって、価格は下げ基調で推移したものの、売価が高めに設定されていたことから売場が広がらず、荷動きの鈍い状況が続きました。

9月後半には他県産サンつがるが終盤を迎え、青森県産が中心の潤沢な入荷が続きましたが、値ごろ感を出した企画展開によって36玉・40玉を中心に荷動きが回復傾向となり、売場の拡大が進みまし

た。一方で大玉果については、量販店による企画が増えているものの、それを上回る大玉果の入荷比率の高さから荷動きの鈍い状況が続きました。また、きおうについては、りんご全体の売場の広がりと流通量が少ないことから荷動きは回復しました。

長野県産の中生種については売場の中心がまだ青森県産のサンつがるであり、ロットの少なさから限定的な販売となりました。

今後、ナシについては、これまでの高値在庫が徐々に整理される見込みのため、量販店での売価設定も下がり、荷動きの回復が見込まれる一方、消費地の気温低下により売場の縮小が進む見込みとなっております。

カキについては、産地の夜温低下により着色が進んでいることから、入荷の増加が見込まれ、これまでの高値在庫が少ない状況から価格を下げての販売となり、売場

の拡大が進む見通しです。

りんごについては、10月初旬を目途に青森県産のサンつがるの販売が終了を迎え、早生ふじの入荷が始まります。長野県産については、秋映・シナノスイート等中生種の入荷がピークを迎えることから、荷動きを重視した価格設定により、売場の拡大が進む見込みです。

当農協では、9月末より台湾向けのトキの輸出用選果荷造り作業が本格化しております。また、10月前半は早生ふじ系、10月後半には様々な品種がピークを迎えますので、市場状況や需要の情報を見極め、有利販売に取り組みますのでよろしくお願ひします。



国内外に向けて選果が進むトキ（10月3日撮影）

単価は全農あおもりデータ（9/29累計）

品 種	サンつがる	早生ふじ	ト キ	きおう	その他	合 計
単 価 (円)	2,590	3,487	3,800	2,678	2,926	2,646
前 年 比 (%)	92	92	130	100	107	92
出荷数量 (箱/10kg)	681,183	700	20	143,298	55,919	881,120
前 年 比 (%)	96	24	0	105	121	98



○りんご作業 (10/15~11/15)

りんごの作業では、中生種の収穫や晩生種の着色管理が最盛期となっております。

収穫が早すぎると貯蔵中のビターピットの発生が多くなり、遅すぎると油上がりや果肉の軟化の原因となります。地色の抜け具合を確認し適期収穫に努めましょう。

収穫時期に悩んだ場合には、農業振興課に相談いただければ調査に伺います。

収穫した果実は、鮮度保持のために、できる限りその日のうちにJAへの入庫をお願いします。また、りんごの盗難が多くなる時期となりますので、園地での野積みは絶対にやめましょう。

○積雪前の野ネズミ対策

例年、冬期の根雪の期間に野ネズミの食害に悩まれている方も多いかと思います。そこで今回は雪が降り始める前の耕種的防除を紹介いたします。

●野ネズミ被害を受けやすい園地の特徴としては、園地が汚れていることが挙げられます。特に野菜などの畑作物を付している所では、それらの残さをきれいに片づけ清耕にするようにしましょう。

また、草生、敷草等を行っている場合は、野ネズミが巣を作りやすいので、積雪前に幹の周囲を清耕にして野ネズミの巣を壊す又は、巣を作るのを防ぎましょう。

●樹幹に対する野ネズミの被害は、成木よりも若木に多く、苗木及び若木に晩秋に地上1m位の高さまで（積雪の多いところでは更に上まで）樹幹に合成樹脂のプロテクターや肥料等の空袋、金網などの被覆材料を巻きつけましょう。

○効果的な殺そ剤の使用方法

殺そ剤は、園地が隣接する農家と共同で広範囲にわたって一斉に実施する事でより効果的に被害軽減が可能です。また、野ネズミの穴や通路穴に殺そ剤を投入する際には、土手や園内など雑草が茂っているところを重点的に行いましょう。

○忌避剤による対策

忌避剤であるアンレスは10倍液を樹冠部に塗布または散布しましょう。

・使用するときには、噴口のつまりを防ぐため、よく練ってから希釈をおこないましょう。また、24時間降雨等ないことを見越して使用してください。

▼苗木を植えた園地や例年野ネズミの被害に悩まされている方は、積極的に耕種的防除を行い被害軽減に努めましょう。

※今後は、本格的に収穫作業が忙しくなります。朝晩は冷え込みますので体調管理にも十分注意しましょう。ハシゴや機械を使った作業を行う際は、機械点検や身の回りの安全を確認したうえで作業し、事故防止を心がけましょう。

○JAで取り扱っている資材

商品名	特徴	価格 (税込)
ヤソチオン (5g × 100袋入り)	小袋詰めをソ穴に投入するか、野ソの通路に設置する。	682円
ZP (1%) (1kg入り)	10aあたり10~40か所に適宜配置する。	1,100円